

今求められている教育

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（中教審議答申）

一人一人の児童生徒が、自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

「学習指導要領 前文」

今求められている教育

2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

① 個別最適な学び

- ・「個に応じた指導」を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により、「個に応じた指導」の充実を図る。
- ・「指導の個別化」：基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自らの学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成する。
- ・「学習の個性化」：学習の基礎となる資質・能力等を土台として、子供の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供する。

② 協働的な学び

- ・「個別最適な学び」が「孤立した学び」にならないよう、探求的な学習や体験活動を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の担い手になれるよう協働的な学びを充実させる。
- ・一人一人の良い点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出す。

「学習指導要領 総則」

今求められている教育

2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

目指す学びの姿（義務教育）

- ・ 新たなICT環境や先端技術の活用等による学習の基盤となる
資質・能力の確実な育成、多様な児童生徒一人一人の興味・関心
等に応じ意欲を高めやりたいことを深められる学びの提供
- ・ 学校ならではの児童生徒同士の学び合い、多様な他者と協働した
探求的な学びを通じ、地域の構成員の一人や主権者としての意識
を育成
- ・ 生活や学びにわたる課題の早期発見等による安全・安心な学び

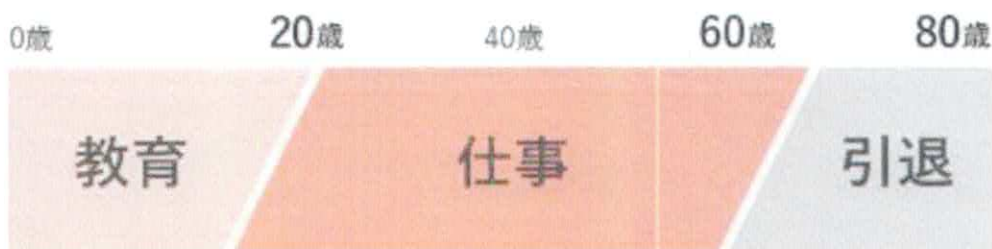
人生100年時代の学びと勤労の多様化

一学びは学齢期に閉じ込められない

これまでの人生

「3ステージ」モデル

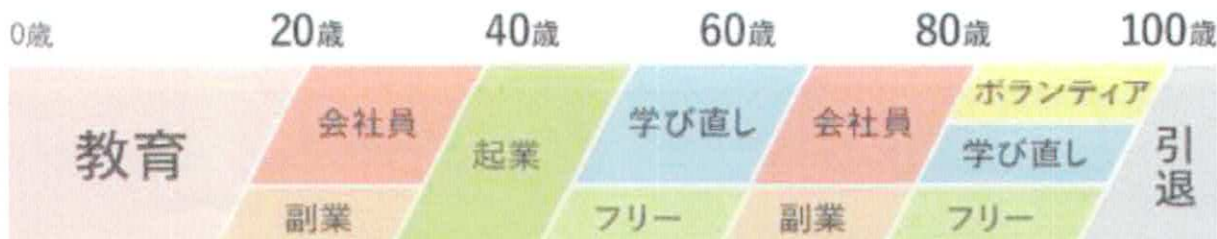
ロールモデルあり。同世代で一斉行進の人生。



これからの人生

マルチ・ステージモデル

ロールモデルなし。年齢とステージは関係なし。人生の多様化。無形資産が重要。



出典：https://next.rikunabi.com/journal/20210720_d11_s/

学校規模適正化について

児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力をのばしていくという学校の特質を踏まえ、小・中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましいものと考えられます。

「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引き」



小学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他による特殊の事情のあるときは、この限りでない。

「学校教育法施行規則 第41条」

学校規模適正化について基本的な考え方

教育的な観点

学校の果たす役割を再確認する必要があります。義務教育段階の学校は、児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎、国家、社会の形成者としての基本的資質を養うことを目的としています。

このため、学校では、教科等の知識や技能を習得させるだけでなく、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要になります。そうした教育を十全に行うためには、一定の規模の児童生徒集団が確保されていることや、経験年数、専門性、男女とうについてバランスのとれた教職員集団が配置されていることが望ましいものと考えられます。このようなことから、一定の学校規模を確保することが重要となります。

「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引き」

学校規模適正化について基本的な考え方

地域コミュニティの核としての性格への配慮教育的な観点

小・中学校は児童生徒の教育のための施設であるだけでなく、各地域のコミュニティの核としての性格を有することが多く、防災、保育、地域の交流の場等、様々な機能を併せ持っています。また、学校教育は地域の未来の担い手である子供達を育む営みの場でもあり、まちづくりの在り方と密接不可分であるという性格を持っています。

このため、・・・学校教育の直接の受益者で児童生徒の保護者や将来の受益者である就学前の子供の保護者の声を重視しつつ、地域住民の十分な理解と協力を得るなど「地域とともにある学校作り」の視点を踏まえた丁寧な議論を行うことが望まれます。

「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引き」